

金光秀和 (Hidekazu Kanemitsu)
法政大学人間環境学部

「教養教育としての技術哲学・技術倫理の必要性」

高度科学技術社会とも呼ばれる現代社会において、技術はなくてはならない存在である。技術は、人間と環境の共存、人間と人間の共存にも大きな役割を演じ、持続可能な社会を実現するためにも必要な存在である。しかし、技術は時に人間・社会にとって脅威にもなりうる。私たちは、公害のような問題を歴史的事実として知っているし、また、人工知能がもたらす問題のように技術の未来に懸念を抱いている人々もいる。これまで、特に工学教育の現場では、技術が孕む光と影の問題は、その開発や運用に従事する専門家が考慮すべき問題として扱われてきた。いわゆる技術者倫理の問題である。現在、さまざまな高等教育機関で技術者倫理教育が実践され、また、学協会でもさまざまな取り組みがなされている。しかし、非専門家は技術が現代社会で果たす役割をどれだけ考える機会があるだろうか。たとえば、ユーザーとして大きな影響を受けるにもかかわらず、技術的人工物がいかにデザインされ、そのデザインが私たちの行為や生活をどのように変えているかを非専門家が考察する機会は稀であろう。本発表では、技術と人間・社会の共生にとって中心的な役割を果たす技術者を対象とした、これまでの技術者倫理のあり方を考察し、さらに、非専門家を対象とした新しい教育の必要性とそのあり方を検討し、教養教育として、技術哲学や技術倫理が必要であることを主張する。